

# JT医薬事業の吸収分割および鳥居薬品株式会社に対する 公開買付けに関する合意書の締結について

2025年5月7日

塩野義製薬株式会社 代表取締役会長兼社長CEO 手代木 功



SHIONOGI

## 新たなプラットフォームでヘルスケアの未来を創り出す

### SHIONOGI Group Vision（2030年Vision）

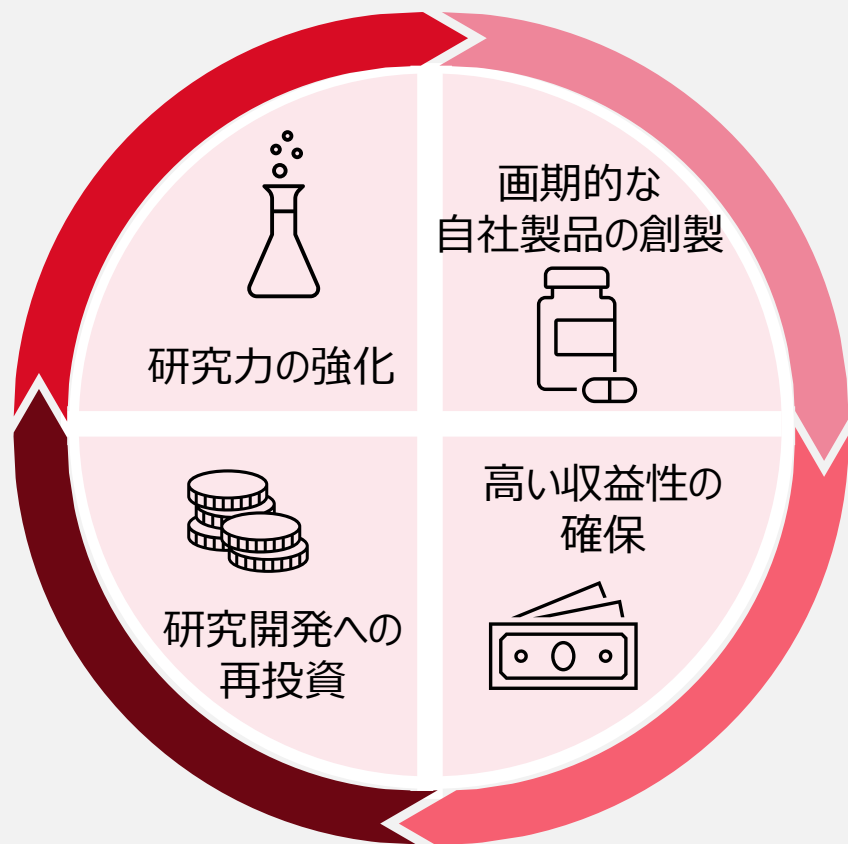
- 2030年にSHIONOGIが成し遂げたいこと -

**創薬型製薬企業としての“強み”をさらに進化させ、**  
異なる強みを持つ他社・他産業から選ばれることで、ヘルスケア領域の新たなプラットフォームを構築する



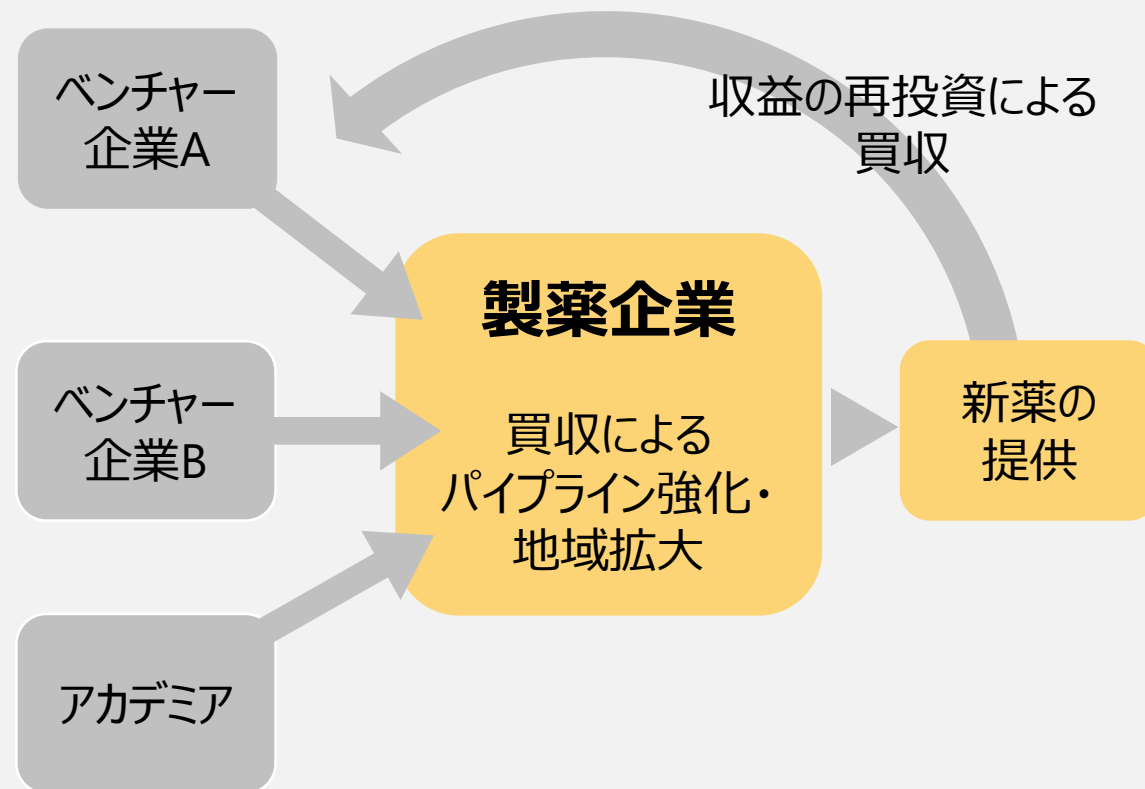
# 他社とは異なるSHIONOGIの成長戦略

## SHIONOGIの追求する成長戦略



“イノベーションを生む優れた研究力”をベースに、  
新薬をグローバルに提供

## 買収による製薬企業の成長戦略



買収によりイノベーションを外部から獲得、  
開発を推進し新薬を提供

# “製薬の基本＝自社創薬”に立ち返った ビジネスモデルのさらなる進化への挑戦

---



# 2030年Visionの達成に向けた強化ポイント

事業の安定化および研究開発体制の強化により、2030年Visionの達成を目指す

## 事業の安定化

- 感染症事業の安定化
  - 情報提供拡大によるCOVID-19の治療率向上
- 流行に左右されない国内製品アセットの獲得
  - 社会的影響度の高いQOL疾患領域の確立
- サプライチェーン体制の強靱化

**QOL疾患の製品アセット強化と情報提供の拡大**

## 研究開発体制の強化

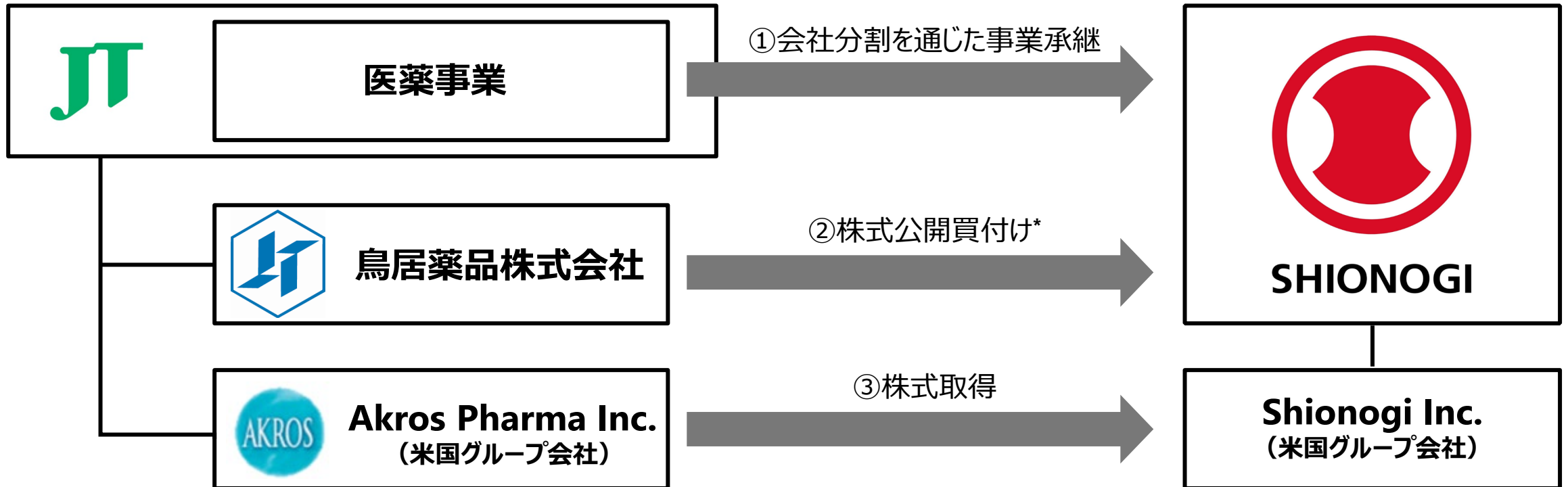
- 研究基盤の強化
- 強みである低分子創薬力の強化
- 感染症領域のさらなる強化と次なる柱の獲得

**グローバルに競争力のある自社製品の創出**

# 本件の概略

- ① SHIONOGIによる会社分割を通じた、日本たばこ産業（JT）医薬事業の承継
- ② SHIONOGIによる鳥居薬品に対する株式公開買付け
- ③ Shionogi Inc.によるAkros Pharma Inc.の株式取得

## JTグループ医薬事業





# JTグループ医薬事業のビジネスモデル

グループが一体となることで、新薬の研究・開発、製造、販売までの強固なバリューチェーンを構築



## JT医薬事業

- ・ 医薬候補品探索～前臨床研究
- ・ 戦略立案・国内臨床開発
- ・ 薬事・市販後安全性情報収集
- ・ パートナリング・アライアンスマネジメント



## 鳥居薬品株式会社

- ・ パートナリングマネジメント
- ・ 国内営業
- ・ メディカルアフェアーズ
- ・ アライアンスマネジメント



東京日本橋



大阪府高槻市



神奈川県横浜市



## Akros Pharma Inc,

- ・ 海外臨床開発
- ・ 海外共同研究・新規技術案件探索



米国・ニュージャージー州 プリンストン

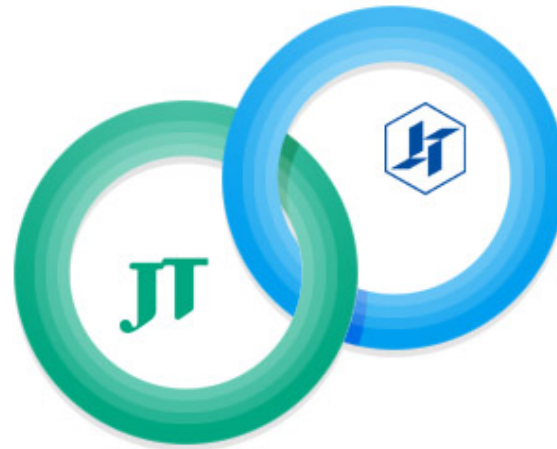
# JT医薬事業と鳥居薬品が一体で大きな価値を創造する

継続した価値創造に向け、両者一体となった事業展開が今後も重要

強みのある領域において、研究から販売までを一気通貫で取り組むことで、患者さまのニーズに応える新薬を提供

## JT医薬事業の 研究・開発における重点領域

- 免疫・炎症領域
  - 自己免疫、自己炎症、アレルギー疾患
- 中枢領域
  - 神経変性疾患、精神疾患
- 循環器・腎臓・筋領域
  - 循環器疾患、腎疾患、筋疾患



## 鳥居薬品の 注力領域

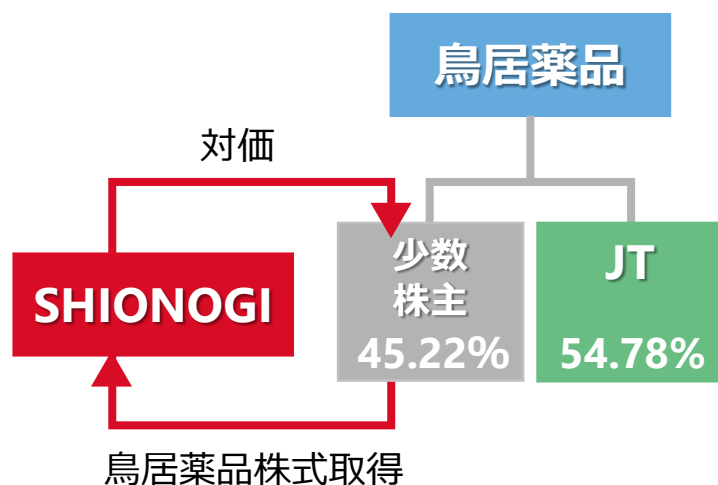
- アレルゲン領域
  - 舌下免疫療法の普及
- 皮膚疾患領域
  - JT創出の「コレクチム」を中心に伸長
- 腎・透析領域
  - JT創出の「リオナ」、「エナロイ」の販売



# 本件のプロセス

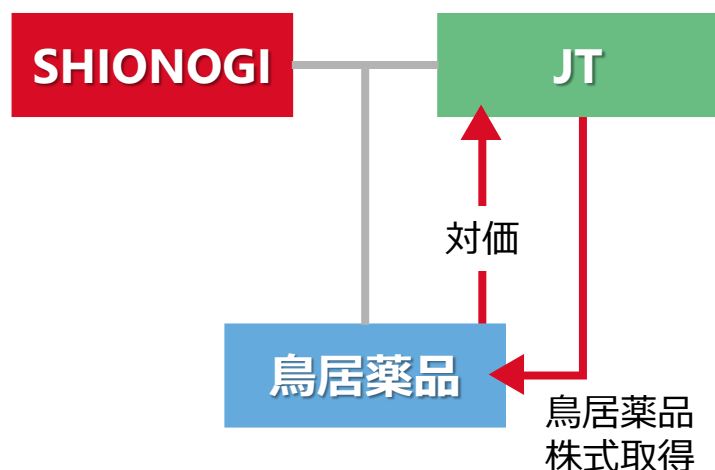
鳥居薬品の株式公開買付け成立により、JTグループ医薬事業のすべてをSHIONOGIグループへ

## 鳥居薬品の 少数株主に対するTOBの実施

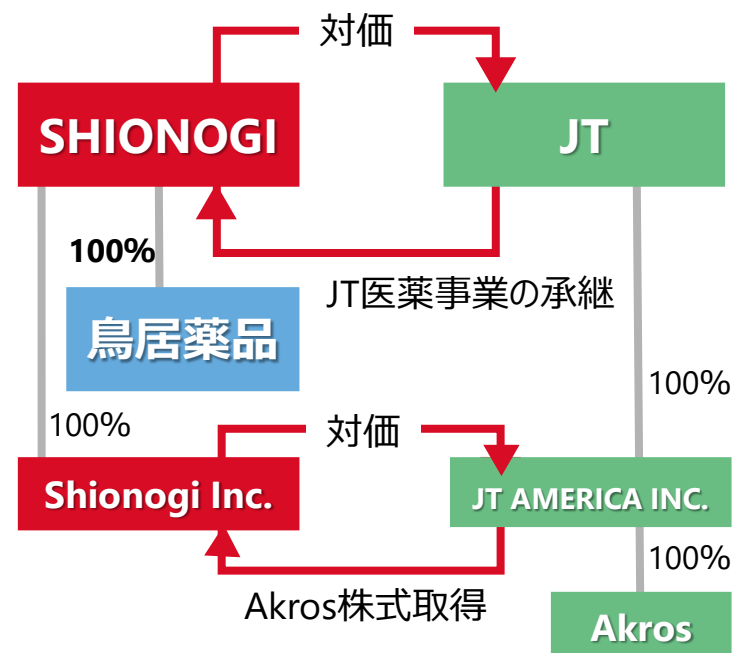


※JTは不応募とすることに合意

- 鳥居薬品による自己株式取得
- SHIONOGIによる完全子会社化



- JT医薬事業の承継
- Akros株式の取得



# SHIONOGIによる鳥居薬品の公開買付けの主要な買付条件

公開買付者	塩野義製薬株式会社		
対象者	鳥居薬品株式会社		
手法	公開買付け		
買付け等の期間（予定）	2025年5月8日から2025年6月18日まで（30営業日）		
決済開始日（予定）	2025年6月25日		
買付け等の価格	普通株式1株につき、金6,350円		
プレミアム	2025年5月2日終値（5,230円）	:	約21.41%
	過去1ヶ月間の終値平均株価（4,432円）	:	約43.28%
	過去3ヶ月間の終値平均株価（4,482円）	:	約41.68%
	過去6ヶ月間の終値平均株価（4,559円）	:	約39.28%
買付予定数の下限	3,342,000株		
買付予定数の上限	なし		
買付代金の総額	約807億円（自己資金）		
公開買付代理人	SMBC日興証券株式会社		

# 本件取引公表後の取り組み

今後の予定

2025年9月

: 株式併合および自己株式取得の効力発生

⇒ 鳥居薬品は当社の完全子会社へ

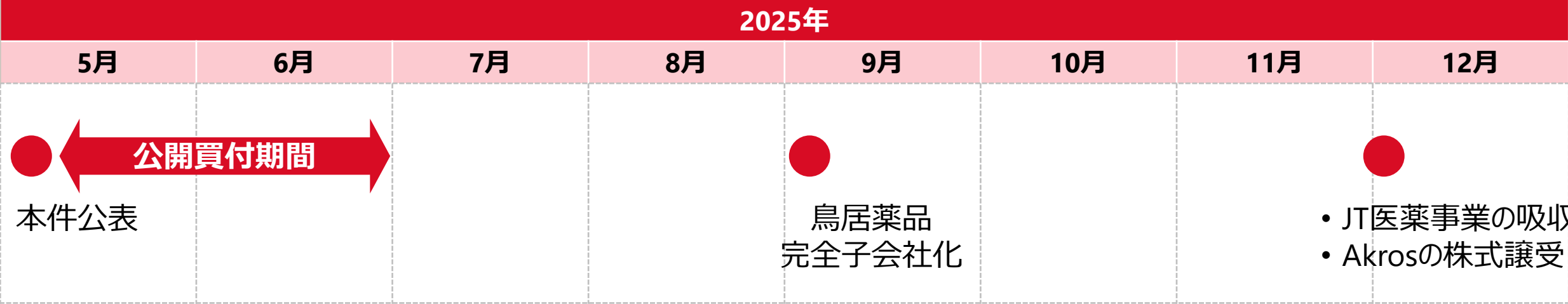
2025年12月

: 会社分割の効力発生

⇒

- JT医薬事業は当社に吸収
- AkrosはShionogi Inc.の完全子会社へ

- 上記それぞれの効力発生時点での取引関係や従業員の業務、職場、働き方等の変更は実施しない



# 2030年Visionの達成に向けた強化ポイント

事業の安定化および研究開発体制の強化により、2030年Visionの達成を目指す

## 事業の安定化

- 感染症事業の安定化
  - 情報提供拡大によるCOVID-19の治療率向上
- 流行に影響を受けない国内製品アセットの獲得
  - 社会的影響度の高いQOL疾患領域の確立
- サプライチェーン体制の強靱化

**QOL疾患の製品アセット強化と情報提供の拡大**

## 研究開発体制の強化

- 研究基盤の強化
- 強みである低分子創薬力の強化
- 感染症領域のさらなる強化と次なる柱の獲得

**グローバルに競争力のある自社製品の創出**

# 事業の安定化 - 鳥居薬品の強み -

鳥居薬品は「アレルギー領域」「皮膚疾患領域」を成長ドライバーとし、着実に成長

## フランチャイズ領域

### アレルギー領域

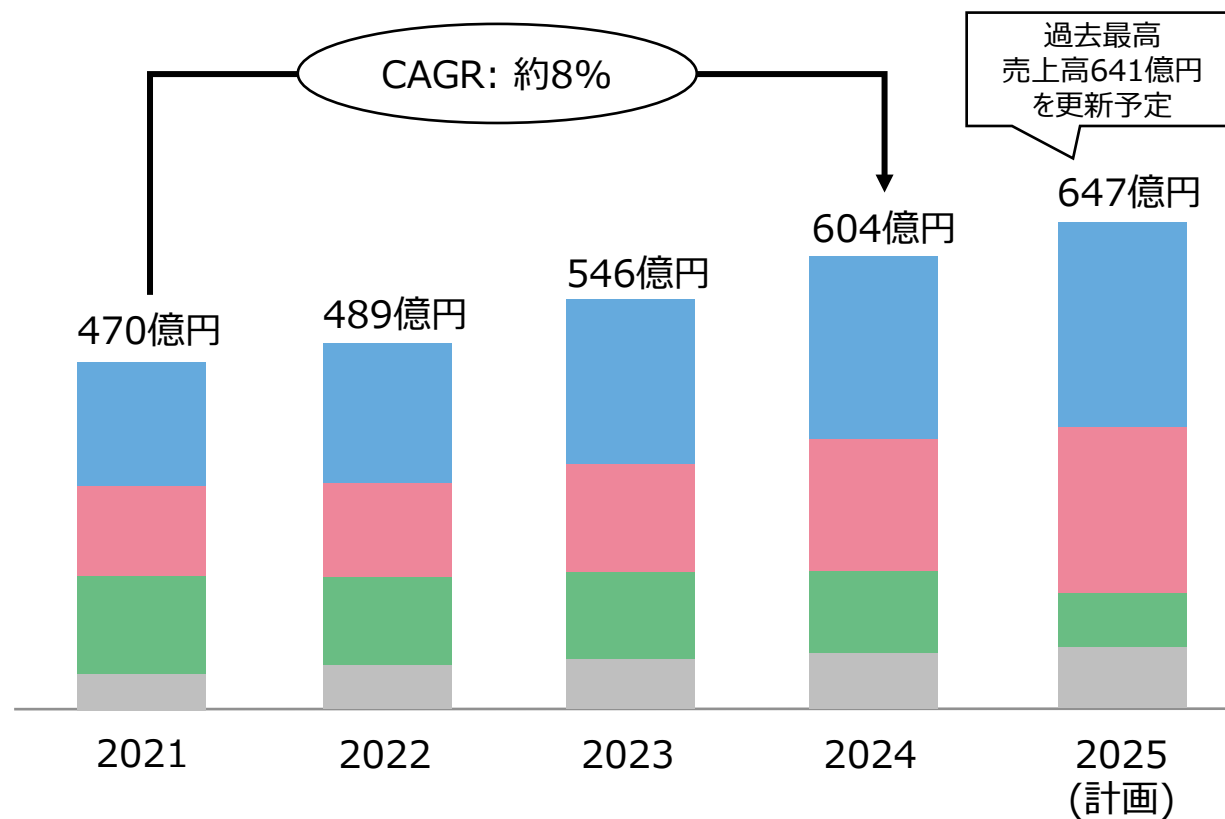
- 過去数年間に渡り、力強い成長を実現
- 2025年7月以降、スギ花粉舌下錠「シダキュア」の増産設備竣工により、更なる増産を計画
- 2025年内にイネ科花粉舌下錠の臨床試験を開始予定

### 皮膚疾患領域

- 「コレクチム」等の伸長により、確実な成長を実現
- 2024年10月に発売した「ブイタマー」の浸透により、今後更なる売上高の伸長を期待
- 2024年12月に伝染性軟属腫を適応症とした製品の国内製造販売申請

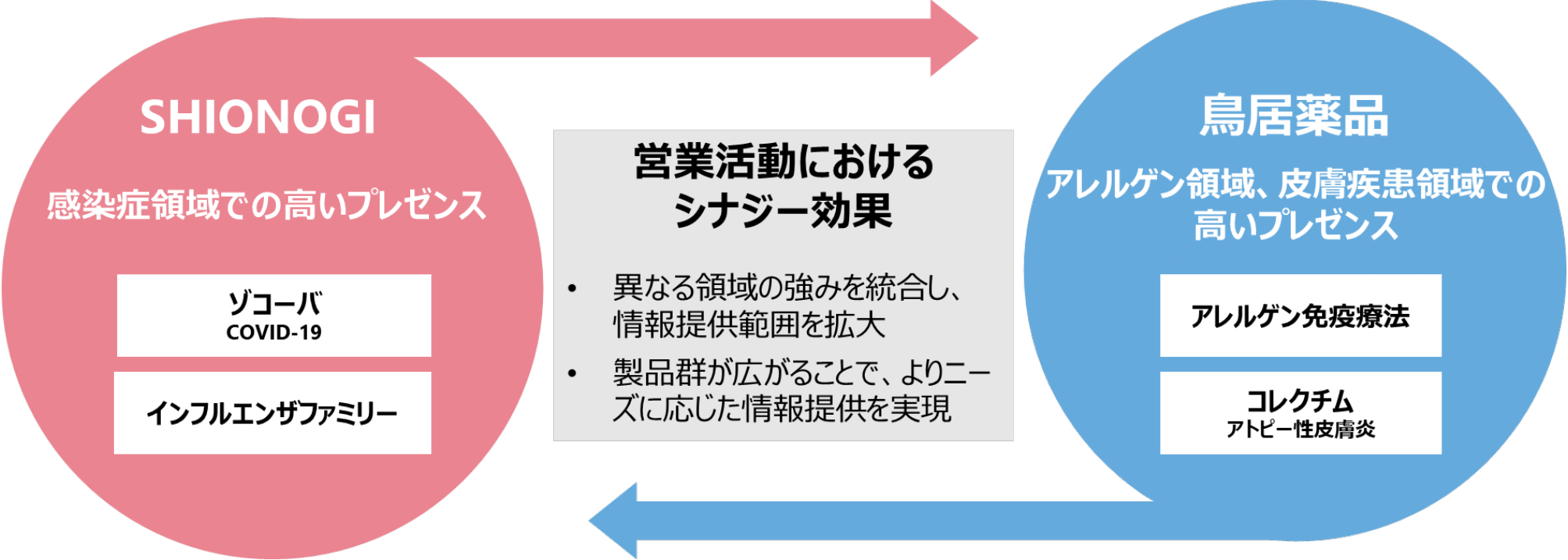
### 腎・透析領域

## 鳥居薬品 売上高



# 異なる強みの融合による成長

情報提供活動を拡大し、患者さまのニーズに応える両社製品を提供



## 両社の注力すべき新薬の上市

**ビタマー**  
アトピー性皮膚炎/尋常性乾癬

2024年10月発売

**クービビック**  
不眠症

2024年12月発売

**ズラノロン**  
うつ病

2025年度承認予定



# SHIONOGIの保有する自社生産体制の活用

SHIONOGIグループの自社生産設備の活用により、安定供給・原価低減へ貢献

研究

開発

生産

販売

## SHIONOGIの保有する自社工場



摂津工場



金ヶ崎工場



尼崎事業所



伊丹工場



徳島工場

JTグループ医薬事業の製品についても、増産・グローバルサプライチェーン構築などの、  
フレキシブルな自社生産体制の確立が可能

# 2030年Visionの達成に向けた強化ポイント

**事業の安定化および研究開発体制の強化により、2030年Visionの達成を目指す**

## 事業の安定化

- 感染症事業の安定化
  - 情報提供拡大によるCOVID-19の治療率向上
- 流行に左右されない国内製品アセットの獲得
  - 社会的影響度の高いQOL疾患領域の確立
- サプライチェーン体制の強靱化

**QOL疾患の販売アセット強化と情報提供の拡大**

## 研究開発体制の強化

- 研究基盤の強化
- 強みである低分子創薬力の強化
- 感染症領域のさらなる強化と次なる柱の獲得

**グローバルに競争力のある自社製品の創出**

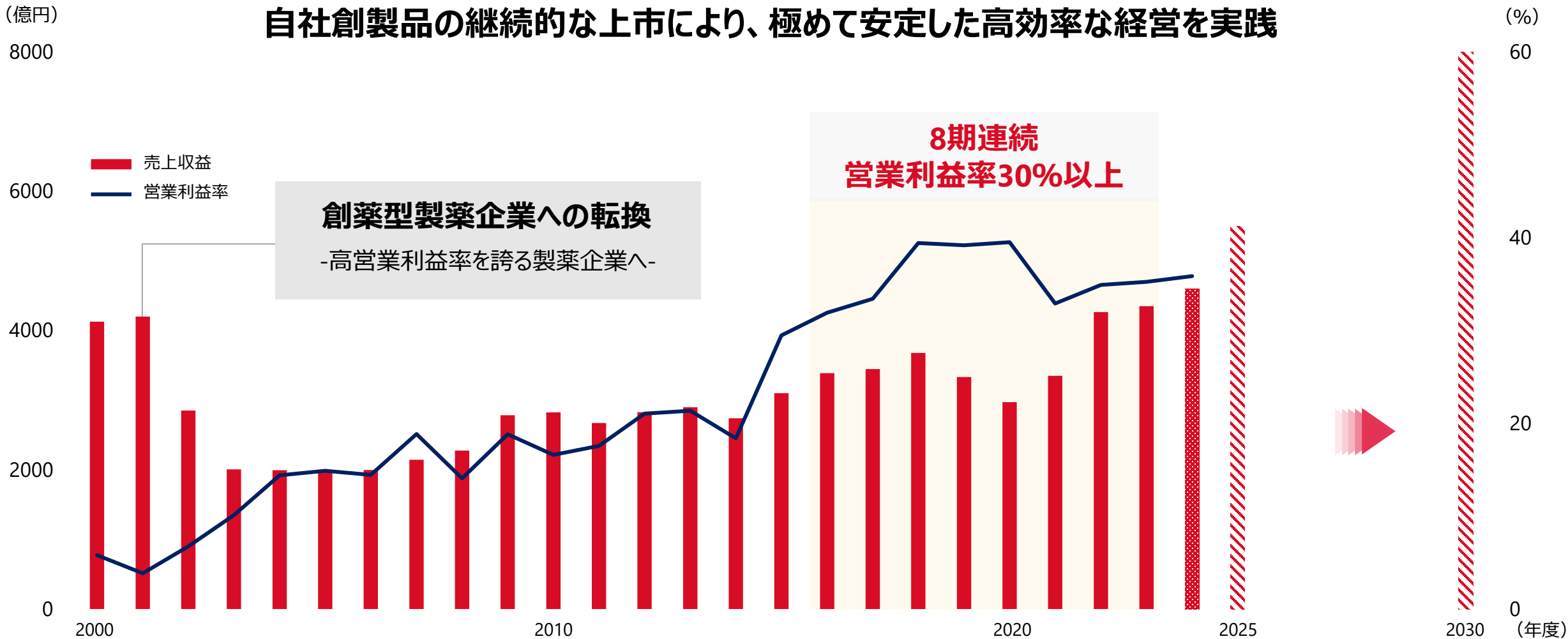
研究開発体制の強化により目指す姿

# 日本発の革新的な医薬品を 世界に届けるリーディング・カンパニーの誕生



“グローバルでNo.1の低分子創薬力”を有する製薬企業となり、  
世界中の患者さまに、必要とされる薬をお届けし続けるというSHIONOGIのミッションを果たす

# 自社創製品によるSHIONOGIの成長

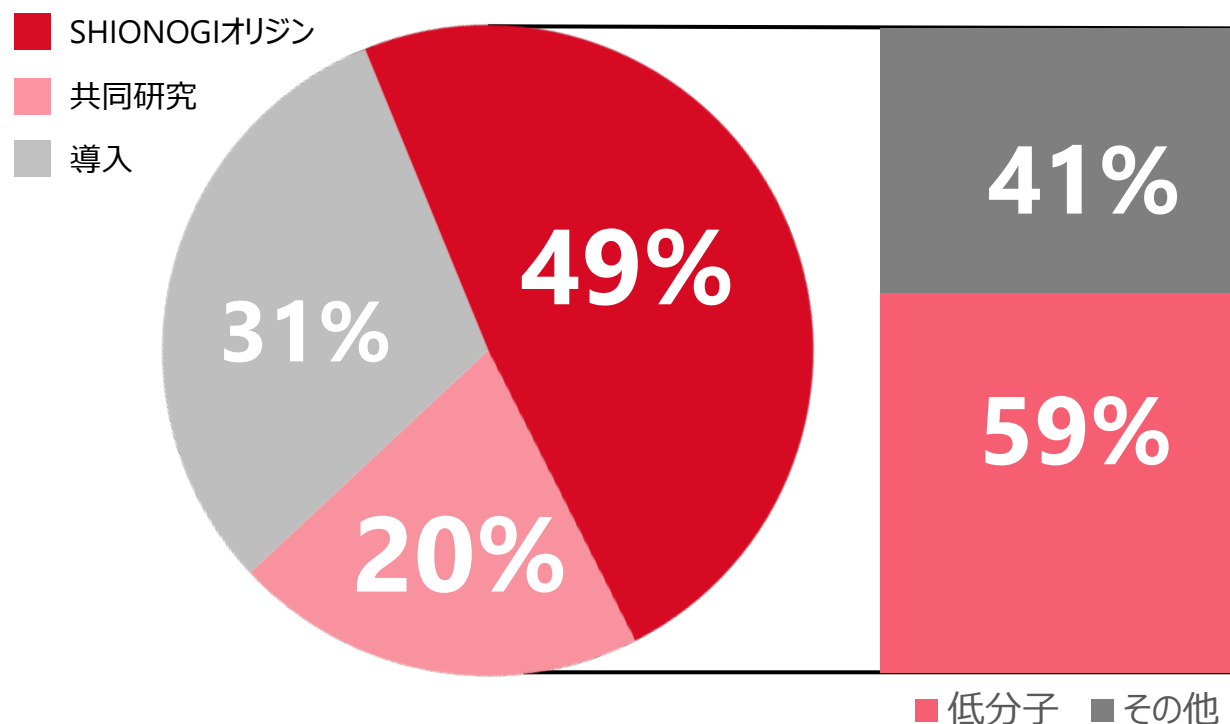


# SHIONOGIの目指す方向性

低分子創薬を中心に、自社創薬にこだわり患者さまへの貢献を果たす

自社創薬比率\* **69%**

そのうち、約60%が低分子医薬品



## 低分子医薬品の強み



豊富な創薬ターゲット

– 細胞内ターゲットへのアプローチ



高い利便性

– 経口投与が可能



優れた経済性

– アフオーダブルな価格設定

# SHIONOGIの低分子創薬における強み

チームそれぞれの技術力の高さと連携により、感染症領域での強みを確立

## チーム連携による創薬研究サイクル

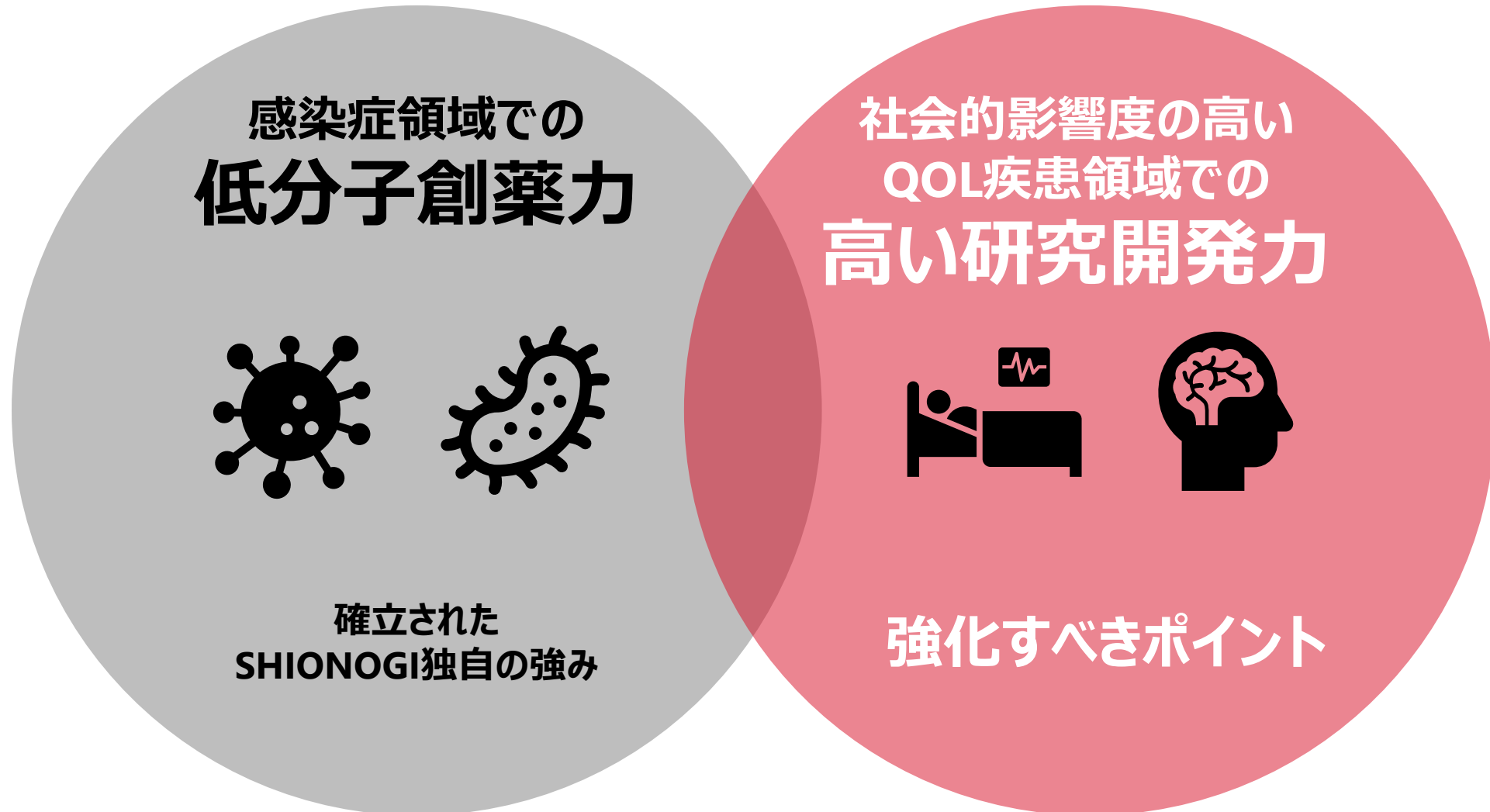


「ウイルス研究」および「低分子化合物デザイン」のノウハウを活かしたSHIONOGI独自の「創薬プラットフォーム」





# 低分子創薬の強みを“感染症”から“QOL疾患”へ拡大



# 研究開発体制の強化 - JT医薬事業の強み -

## 低分子創薬で優れた創薬実績と創薬基盤を有する



## JT医薬事業の研究開発の強み・特徴

### 低分子創薬に特化

- ・ 経験豊富なメディシナルケミスト\*1

### QOL疾患との親和性高い重点領域

- ・ 免疫・炎症領域
- ・ 循環器・腎臓・筋
- ・ 中枢領域

### 優れた創薬基盤技術

- ・ キナーゼ創薬\*2 のノウハウ
- ・ AI創薬のプラットフォーム
- ・ トランスレーショナル研究\*3 の実践

\*1 主に新規化合物の設計、合成、評価を行う研究者 \*2 細胞機能を調節する酵素(キナーゼ)を標的とする創薬

\*3 基礎研究の成果を臨床応用へ橋渡しし、新薬開発の効率化と成功率向上を目指す研究

# グローバルNo.1の低分子創薬を実現

## グローバルに医薬品を届けるための研究体制を強化



医薬研究センター：大阪府豊中市

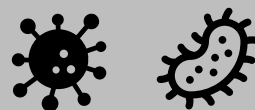


医薬総合研究所：大阪府高槻市



横浜リサーチセンター：神奈川県横浜市

### 感染症領域での 低分子創薬力の強化・ 生産性の向上



- AI創薬プラットフォームの活用
  - 研究開発のスピードアップを実現
- メディシナルケミストの経験・ノウハウを融合
  - 優れたパイプラインを継続して創出

### 社会的影響度の高い QOL疾患領域での 有望なパイプライン創出



- 創薬基盤技術の活用
  - 有望なターゲットを探索
- 臨床を見据えた研究力の強化
  - 成功確率の高いパイプラインの創出

**低分子創薬力を磨き上げ、注力領域での継続した開発パイプラインを創出**

# グローバルカンパニーへの変革を加速

SHIONOGIがJTグループ医薬事業を一体で獲得し、世界中のアンメットニーズを抱える患者さまに貢献

## グローバルNo.1の低分子創薬力

- SHIONOGIの低分子を製品に仕上げる力
- JT医薬事業の創薬基盤力



## 自社創製品のグローバル開発

- SHIONOGIのグローバル開発の経験・ノウハウ
- 両者開発品をグローバルに自社展開



- 豊富な国内製品アセット
- SHIONOGIの販売網を活用したグローバル展開

## 自社販売の拡大と生産性向上

- SHIONOGIの自社生産施設の活用
  - 安定供給の確保
  - 原価低減への寄与

## 柔軟な生産体制

